

広報グループの取組-啓発パンフレットについて-

BM 子どもネット広報グループ：末永麻子（北京ニッポン塾） 鈴木史子（上智大学短期大学部） 鈴木庸子（国際基督教大学教育研究所） 森典子（豊中市教育委員会国際教室） 拝野寿美子（神奈川大学） 服部珠予（長野県国際化協会） 宮崎幸江（上智大学短期大学部） 柳瀬千恵美（九州大学） 他非公開メンバー1名

発表の概要：

BM 子どもネット広報グループは、2016年の第一回BM子どもネット勉強会のグループディスカッションにおいて、リミテッド状況の子どもの問題を解決するために啓発・啓蒙が必要であることを確認し、啓発パンフレットの作成を提案した¹。2017年8月に開催された第二回研究会においては『子育てのことばー児童館から見たこと』²を提示し、2018年度はこれを参照しつつ、BM子どもネット研究会における議論や発表、BM子ども相談室で得られた知見をしかるべき人々にいち早く伝えるための活動として、パンフレットの作成を進めることとした（広報活動の重要性や方法は石井（2004）を参照³）。

本発表では、しかるべき人々とは誰なのか、その人が最も必要とする情報はどのようなものか、といった議論を整理したマトリックスを提示した。これを土台として、将来はバイリンガル・マルチリンガルの子どもの健全な言語育成のため、全体像のわかるパンフレットの作成をめざす。つまり、マトリックスは対象者、掲載内容、デザイン、設置場所、部数まで広く考察する青写真となる。

パンフレットは、バイリンガルの育成やリミテッド状況への対応のために何かしたいと思っても、一人では行動に移しづらいといった方々にも有用となろう。グループ内のディスカッションでは、全体像を示すパンフレットの作成を最終目標としつつも、緊急度の高い対象者に緊急度の高い情報を優先的に提供する必要性も指摘された（例えば、海外の日本語継承で最も必要とされている情報は多くの事例とダブルリミテッドに対する対処法である等）。グループ内での意見に加えて、当日の参加者からの意見を踏まえ、2019年度には対象者別のいくつかのパンフレットの完成を目標とする。

発表当日は、海外で子育てに取り組む参加者や既に在日外国人児童生徒の母語教育に取り組む研究者、自治体やNPOで啓発活動に取り組む参加者などから以下の通り有用な指摘を数多く頂いた。さらに、広報グループがパンフレット作成とあわせて考案する、多言語環境での子育てに関する情報の母子手帳への掲載を提案したポスター発表への連続的な参加を促すことで、当グループの取り組みについて全体的な理解が可能となるよう工夫した。

参加者からのご意見：

【保護者向け】

○海外在住

・海外在住の母親に対して、子どもたちがリミテッド状況に陥る可能性があることをできるだけ早く周知すべきだと思う。

・国際結婚家庭の場合、日本人の親だけでなく、外国人の配偶者や周囲（特に義父母）にも、親のそれぞれの母語使用（教育）について理解してもらうことが大事である。

・意識の低い母親にどのようにこうした情報を周知するのが重要なのではないか。

・Q&A 特集にしてはどうか。特に海外在住の子育て世代のお母さん方はネットで自らと似たような事例を探し出して参考にする傾向があり、成功例が掲載された個人のブログなどをよく閲覧している。

・海外でお世話になっている先生の中にも、多言語環境で育つ子どもの言語教育についてあまり知識のない先生がいるので、先生にも「こういう教育をしたい」と提示できるようなパンフレットが欲しい。

【学校教育関係者向け】

○日本在住

・学校担任から「母語を大切に」と保護者に伝えてもらっている。

・多言語で育つ子ども達を取り巻く環境や教育について、教員研修や教職課程のカリキュラムに組み込んで全ての先生が学べるようなシステムを作りたい。

【パンフレットへのアクセス】

○海外在住

- ・現地日本大使館や領事館、日本語補習校、海外子女教育振興財団などに置いてもらう。
- ・駐日各国大使館や領事館に置いてもらう。
- ・海外在住者のために、BM子どもネットのサイトからダウンロードしたり、動画で見られたりできるようにしてはどうか。

○日本在住

- ・産婦人科に置いてもらう。
- ・自治体の母子健康手帳交付窓口に置いてもらう。
- ・入国管理局の待合室に置いてもらう。
- ・地域の子育て支援センターに置いてもらう。

【特に重要だと思われる情報】

- ・マトリックス内のA-4及びB-4に当てはまる、リミテッド状況に関するもの（リミテッド状況という存在とその正しい理解、判断の基準、事例、対処法）。

【その他】

- ・愛知県で作成した母語を大切にすることを明記したパンフレットの提供や、他地域で実践する方の取り組みなど、重要な情報が寄せられた。

今後に向けて：

当日の参加者からの指摘も考慮した上で更にグループ内で議論を重ねて2019年度8月に予定されている第四回研究会ではパンフレットを形にして提示することを目標としたい。

参考資料

1. バイリンガル・マルチリンガル (BM) 子どもネット第1回学習会 報告 2 (http://harmonica-cld.com/wp/wp-content/uploads/2016/01/BMCN1_Repo2_160810.pdf)
2. 「子育てのことば—児童館から見えたこと」鈴木庸子・西方郁子（『2017年度バイリンガル・マルチリンガル(BM)子どもネット研究会配布資料』）(http://harmonica-cld.com/wp/wp-content/uploads/2016/01/4-2_poster2.pdf)（絵本形式のパンフレット。保護者に語る体裁をとりつつも、読んでもらいたい対象は保育士・幼稚園教諭、児童館職員などを含む。）
3. 石井加代子（2004）「読み書きのみの学習困難（ディスレキシア）への対応策」*Science & Technology Trends*（December 2004）pp.13-25.（2018年7月25日アクセス）(<http://data.nistep.go.jp/dspace/bitstream/11035/1557/1/NISTEP-STT045-13.pdf>)（ディスレキシアの問題を人々に知ってもらうため、どのような対策をどのような手順で進めるとよいか具体的な提言が書かれている。）